



七畳夢空間

しちじょう ゆめくうかん

Shichijo-Yumekuukan

お座敷

LAYOUT

敷設記

第3回

ふちんかん

現在自宅7畳間に敷設中の鉄道模型お座敷レイアウトについてつれづれ綴ってみる。
今回はレイアウトの設計・土台作りについて紹介したい。

レイアウター購入

今回イチからレイアウトを始めるに当たって、それなりの規模にするつもりだったので、ちゃんと設計をすることからはじめた。これまでは現物合わせで何とかしていたのであるが、お座敷レイアウトは線路のつなぎ目のわずかな角度のズレが先々で大きくなっていく。はじめにきちんと一周できるという担保があれば、あとで現物合わせで変更を加えていっても安心である。

さて設計をするために、はじめはフリーのレイアウターで作っていた。しかしある程度線路が多くなるとリミットがかかり、有料版へ誘われる。これがまた高い。同じ高いならばとトミックスの純正レイアウターを購入した。使い方に少し癖はあるが公式だけに線路の種類も豊富である。



ちなみにこの商品は某レイアウターのサブセット版のような存在である。本家は作ったレイアウト内で車両を走らせたりもできるのであるが、これまた車両ごとに課金があり、沼りそうだったので本家の購入はやめておいた。そもそも画面内で走らせることはない。リアルなレイアウトを作るのだから。

設計

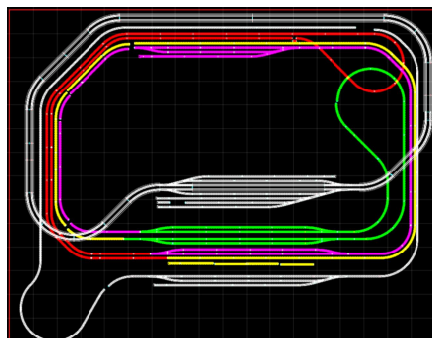
7畳の空間のうち、入り口から続く長辺を運転席とする。これまでの反省で、全体を見渡せること、いちいち線路をまたいだり潜ったりせずに運転に入れることをまず考えた。





全体として、中心部にメンテナンスのためのスペースをあけること、そこから手が届く範囲で線路を敷設することにした。

そのあと、手持ちの車両をイメージして、高規格線やローカル線などを設計した。今回はとにかくロングランの在来線を作りたかったので、なんとかドックボーン型を多重にできないかに頭を悩ませた。運転席から見て、左奥には柱がありスペースが少ないので、右奥にドックボーンの両端を設計、ここに高低差をつけることで解決した。



土台

土台部はこれまでの反省からしっかりしたものが必要となる。今回は大量の組み立てラックの上にスチレンボードを置くこととした。

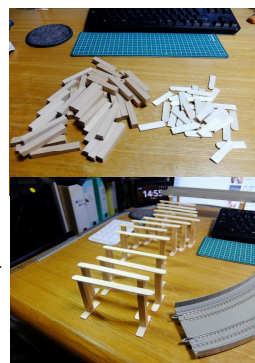
ラックは余ったレールや車両ケース、メンテナンス部品などの収納場所として重宝している。

スチレンボードは、カッターで必要な形に切ることができ、配線用の穴開けも簡単で、着色もできるので有用である。サイズはいくつかあるが、一枚でもそれなりに強度が保てること、2枚重ねることで立体交差に必要な高さとなる3cm厚を購入した。

ドックボーンの高低差と高規格線のため+6cmの高台を向こう正面に設置した。スチレンボードの高さが3cm、それを100均で手に入るブロック木材(3cm)でかさ上げしてある。+6cmの高台は正面にもあり、高規格線のヤードになっている。

高架橋自作

高規格線の+6cmをキープするために、部屋の左右にも高台を設置、それ以外の部分は自作の鳥居型の高架橋で支えることにした。ホームセンターで角材を購入、サービスで6cmごとに切断してもらい支柱とした。切りしろで数ミリ減るが、薄い棒材を土台部と上面に接着することで解決した。鳥居形の橋脚はレールをまたぐことができ、便利である。



(第3回終わり)